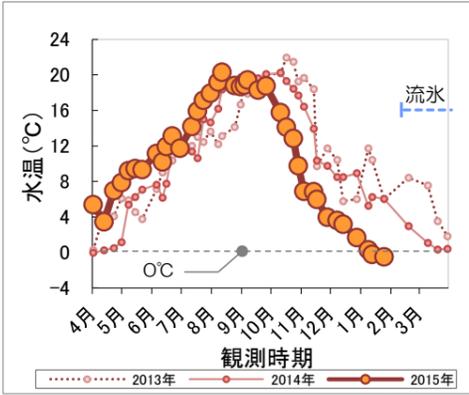


# ◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2016年1月)

## 海洋環境データ

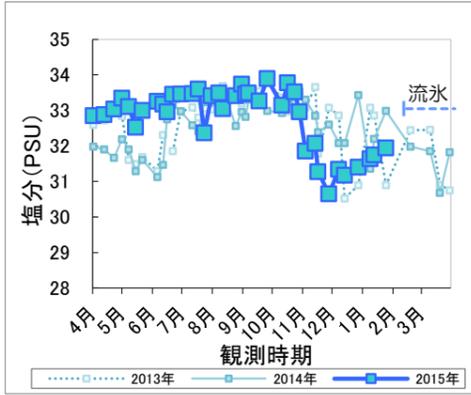
※観測：紋別市

### ◎水温 (0~9mまでの平均値)



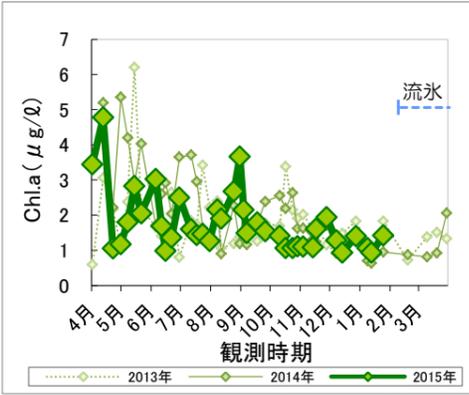
※2016年1月27日：流水初日 発表

### ◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2016年1月27日：流水初日 発表

### ◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

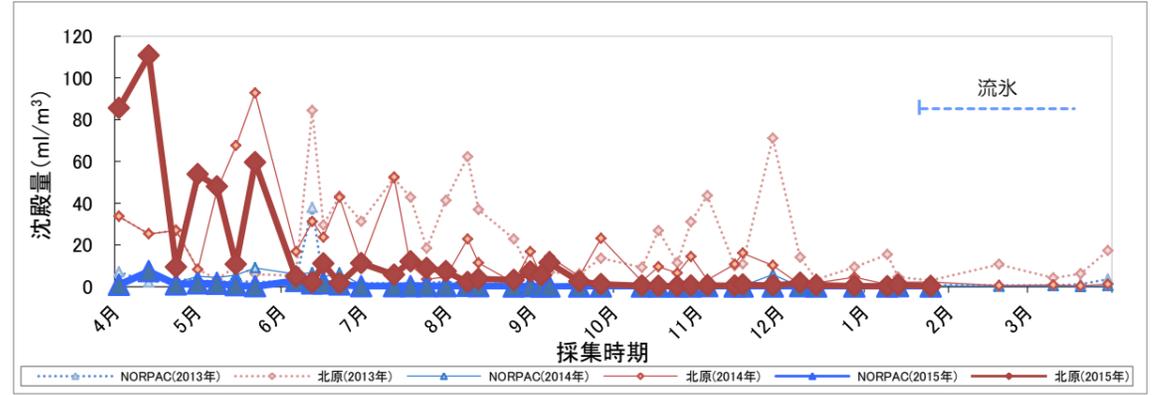


※2016年1月27日：流水初日 発表

## 動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

### ◎動物プランクトン・沈殿量



※2016年1月27日：流水初日 発表

## 概要

	1月9日	1月13日	1月25日
平均水温 (°C)	0.3	-0.2	-0.5
平均塩分 (PSU)	31.6	31.7	31.9
平均Chl.a (µg/l)	1.1	0.9	1.4
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 0.0 (北原式定量ネット) 0.2	(NORPACネット) 0.2 (北原式定量ネット) 0.9	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 0.3
主な出現種	(NORPACネット) ○ <i>Calanus pacificus</i> [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ○ <i>Neocalanus plumchrus</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Pseudocalanus minutus</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○ <i>Acartia hudsonica</i> [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○ <i>Acartia longiremis</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] (北原式定量ネット) ○ <i>Neocalanus plumchrus</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Oithona similis</i> [+++] (カイアシ類の1種) ◎ Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類のノープリウス幼生)	(NORPACネット) ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○ <i>Eurytemora herdmanni</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ◎ <i>Acartia hudsonica</i> [++] (カイアシ類の1種) [汽水性]	(NORPACネット) ◎ <i>Pseudocalanus minutus</i> [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎ <i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○ <i>Acartia hudsonica</i> [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○ <i>Acartia longiremis</i> [+] (カイアシ類の1種) [冷水性]
備考	○ (NORPACネット) — ○ (北原式定量ネット) —	○ (NORPACネット) 腐植質多い ○ (北原式定量ネット) 腐植質多い	○ (NORPACネット) — ○ (北原式定量ネット) —

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[ ]内の“+”は分析者主観による個体数の多さを示す ([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す (◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質 (主に枯死・分解した植物由来の物質) が多く含まれており、沈殿量および湿重量はこれを含んだ数値で示す。

※沈殿量の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1 (ml/m³)”未満になったことを示す。

※参考文献：①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説 [東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑 [保育社] / ③岩国市立微生物学館 監修 (2011) 日本の海洋プランクトン図鑑 [共立出版]

④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods, 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.

⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門 [恒里社厚生館] / ⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.

⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タカラ* **13**号, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類 [生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) ずかん プランクトン [技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち [北海道新聞社]

## 出現量の多かった種類

- *Neocalanus plumchrus*\* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.4-3.3mm, φ4.3-4.6mm. 冷水性. 外洋性. ニホン, サカ等の魚類の好餌種. 成長とともに成虫移動をすることが知られ, コレボディ期幼虫は表層に, 成体は中・深層に分布する.
- *Pseudocalanus minutus* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.1-2.2mm, φ1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度域に分布. 日本では北海道東部の汽水域や沿岸域, 青森・三陸等から知られる. 雄の成体の後脚の形が雌と左右非対称に異なるのが特徴.
- *Pseudocalanus newmani* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.0-2.5mm, φ0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する. 東北以北の沿岸では冬季最も多量にカイアシ類の1種となる.
- *Eurytemora herdmanni*\* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.1-2.4mm, φ1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度域に分布. 日本では北海道東部の汽水域や沿岸域, 青森・三陸等から知られる. 雄の成体の後脚の形が雌と左右非対称に異なるのが特徴.
- *Acartia hudsonica* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.0-2.2mm, φ0.7-1.0mm. 九州以北の北西太平洋沿岸の内湾・汽水域. 国内の出現は内湾・汽水域に限られる. 本州以南の閉鎖的な内湾では, しばしば春季に優占種となる種.
- *Acartia longiremis*\* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.1-2.4mm, φ0.9-1.2mm. 冷水性. 世界各地の冷水域沿岸に出現する. 日本では主に東北から北海道沿岸に分布する.
- *Oithona similis* (カイアシ類の1種: ヲコバシ・アムシ) 体長: 2.0-2.2mm, φ0.7-1.0mm. 各地の内湾・沿岸・外洋で普通に出現. 日本各地の沿岸にみられる代表的な種. 各水域に広く多く分布するが, 比較的冷水域を好み, 外洋より沿岸に多い.
- Copepoda (nauplius) (カイアシ類のノープリウス幼生) カイアシ類の発生途中の幼生. 脱皮を繰り返してノープリウス, コレボディ期幼虫の段階を経て成体になる. 海洋生物の発生生態には, 最も重要な段階の一つとしてカイアシ類のノープリウス幼生が決定的といわれている.

※ *Neocalanus plumchrus*, *Eurytemora herdmanni* および *Acartia longiremis* は今月の調査で含まれなかったが, 比較的頻りに出現していたため参考として記載した。